

絹の道職場長会議連絡表

令和 7年10月1日(水)

部署名	事務所	記入者	栗原 利政	
項目	内容			
結 果	【職員意識調査アンケートの結果】			
	アンケートの回答総数は61名			
	・年齢別⇒20代:0 30代:9人 40代:10人 50代:24人 それ以上:18人			
	・所属課⇒支援課:15 援助課:11 医務課:5 地域課:18 在宅支援課:12			
	・主な業務内容として⇒身体介護:46 入浴介助:34 食事介助:48 排泄介助:50			
	記録・事務作業:36 ケアマネ業務:2 送迎:18 調整業務(多職種連携など):5 その他:18			
	・現在、体調面で不安に感じていること⇒腰痛:32 関節痛:12 慢性的な疲労:18 睡眠の質:16			
	ストレス:16 特になし:10			
	・業務に支障が出るほどの健康上の問題は⇒はい:6 いいえ:54			
	・定期的に体のメンテナンス(整体、病院、運動等)は⇒はい:40 いいえ:21			
	・現在の業務量や内容についてどう感じているか⇒負担が大きい:6 やや負担がある:22			
	特に問題ない:32 余裕がある:1			
	・体力的に厳しいと感じる業務は⇒入浴介助:10 移乗介助:9 排泄介助:7 夜勤:6 送迎業務:4			
	緊急対応:4 特にない:30			
	・上記の業務から「可能であれば離れたい」と思うか⇒はい:5 いいえ:50 条件付きであれば考える:2			
	・体力的な業務を減らす代わりに、今後取り組んでみたい・担え则认为る業務は			
	⇒事務作業(記録・書類作成):7 指導・育成(新人、若手職員へのOJT等):2 委員会や行事の担当:2			
	カンファレンスや家族対応のサポート:3 物品管理、備品発注などの業務:3 チームマネジメント:3			
	・体力的な業務(入浴介助・移乗・夜勤など)を減らす代わりに、給与が減っても構わないと思うか			
	⇒負担が減るなら給与が多少下がっても構わない:2、給与が下がるのは困るので今のままで頑張りたい:42			
	状況によっては検討したい 具体的に:4			
	・給与を維持したままで、体力的な業務の一部を若手などに任せる代わりに別の業務を担うのは			
	⇒行事やイベントの企画・準備:2 委員会活動(感染症対策、安全衛生、業務改善など):1			
	マニュアル整備や記録チェック:4 新人・若手、外国人への指導やフォロー:3			
	シフト調整や業務支援、課長・主任などが担っているマネジメント的な業務:7 特に希望しない:2			
	・勤務時間と休日のバランスについて⇒勤務時間が長くても休日が多い(12公休)今のままで良い:			
	勤務時間が短くなって休日が少なくなる方がよい:1			
	上記の結果を踏まえて、現状への満足や安定志向が窺えます、、健康・業務・待遇において大きな			
	問題を抱えていない職員が多数で、日々の業務に対する納得感・受容度が高く大きな変化や改革			
	望むより、「今の状態を維持したい」と考える傾向が強く感じ取られました、、			
	現場の満足感を尊重しつつ、変化の必要性も少しずつ浸透させつつ安定を維持しながら、今後に備			
	えた体制づくりを検討していきたいと思います			
周 知	【利用者による医療器具損壊事案を踏まえた対応と今後の安全管理について】			
	先日、当施設において、ご利用者がバルーンカテーテル(B-T)を接続部から10cm程度の位置で切			
	ってしまう事案が発生しました、、発見時、オーバーテーブル上にハサミが置かれており、ご本人に確認			
	したところ、当該のハサミを使用されたことを認められました、、ハサミによる外傷などは見られませ			
	たが、今回のケースからいくつかの重要な問題点が浮き彫りになっています			
	今後の対応方針として、、			
	鋭利物(はさみ・カッター等)の管理を徹底し、使用後は必ず所定の場所に戻し、居室や共用部に放			
	置しないよう徹底することが重要です、、また、利用者の行動や医療器具の異常など、わずかな異変も			
	見逃さず、早期に報告・共有する体制を強化して下さい、、また職員間の情報連携を密にし、特に安			
	全管理に関する内容は申し送りやカンファレンス等で継続的に確認するように、、そして、過去に実際			
	の事件が起きている現実を踏まえ、「この方に限って」という先入観を持たず、常に最悪の事態も想			
	した冷静かつ客観的な視点で日々のケアにあたることを職員一人ひとりが意識して行動するように			
	お願いします			